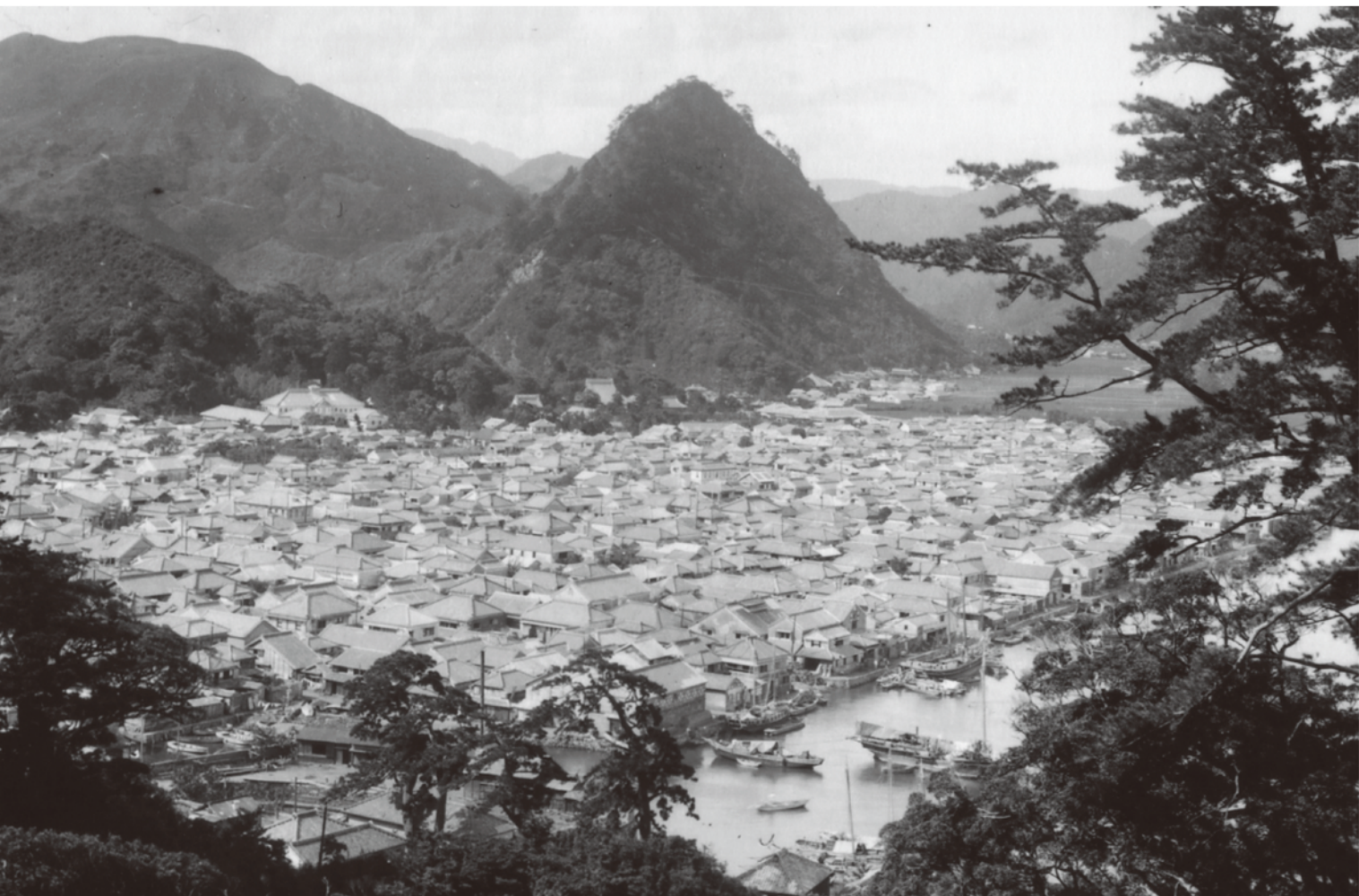


下田市の旧町名の由来



下田公園から撮影した100年前の下田市街の写真。瓦屋根が広がる街並みが美しい。林良平撮影 © 林写真館

昭和37年5月10日に公布された法律によって、旧町名が廃止され、住居表示が現在の○丁目△番×号となりましたが、江戸時代から引き継がれた伝統的な町の名を後世に伝えたいという提案を受け、旧町名を下田まち遺産に認定しました。認定にあたっては、江戸時代の天保年間(1830年頃)の古絵図などを参考に、旧漢字は当用漢字に改めて認定しました。

今回はそんな旧町名に注目し、下田市街の今昔を比較することで見てきた下田の街の特徴をご紹介します。



© 下田市教育委員会



© 下田市教育委員会



「豆州下田港之図」下田市教育委員会蔵

第四代下田奉行今村伝三郎の在任中(寛文8年～延宝6年、1668～1678)に作製されたと考えられる絵図。江戸前期の下田奉行(元和2年～享保6年、1616～1721)の主な任務は、海の関所としての機能を果たすことに在り、江戸へ出入りする諸国の廻船はすべて下田に寄港して、検問を受けるようになりました。奉行所の支配体制が整備され「出船入船三千艘」と称される廻船の入港による経済的繁栄を迎えた時期の下田港の全容がうかがわれます。(佐々木忠夫解説文参照)

旧町名の由来を教えてください。

今回ご協力いただいた郷土歴史研究家の土橋さん。旧町名の由来を調べるにあたっては大変お世話になりました。土橋さんの話から旧町名にはそれぞれの特徴があり、その名前の由来から、当時の下田の町が想像できます。以下の表に各町名の由来をまとめました。



多くの資料に囲まれた土橋さん(写真左)のご自宅で話を聞く

旧町名	由来(下田市として正式に発表するものではなく、諸説あるうちのひとつとして紹介)
須崎町	稲生沢川と敷根川の合流点に出現した三角州(須)の先(崎)にできた町
新田町	須崎町が出来た洲を利用してできた新しい町
殿小路町	海善寺に戸田忠次の居館ができ、身分の高い武士が住んでいた。その門前通りを殿小路と呼んだため。
連尺町	「連尺＝連雀(行商人を意味する)」で、海や山からくる行商人が泊まった町。
紺屋町	染物屋(紺屋)が多く住んだ町。荒地(こうや)だったため、また、あるいはそれを漢字に当てはめたら紺屋(こんや)となった。
町店町	雨戸を店(たな)に見立てて通りに並べ、その上で商品を売っていたため。今の商店街。
長屋町	小役人、または漁民の長屋があった町。
池之町	下田八幡神社の参道の途中にあった池を管理する人たちが住んでいた町。
原町	葦(あし)が生えていた湿地帯で、原っぱだったため。
中原町	葦(あし)が生えていた湿地帯で、原っぱの中にあったため。
上田町	上田(じょうでん)があった町。※上田とは、1反当たり1石5斗の米が出来た良い田んぼのこと。
同心町	下田奉行所の役人(同心)たちが住んだ町。一町目ともいったが、町名というよりは通りの名前という意味合いが強い。弥治川町の一部。
二町目	同心町(一町目)から北側を二町目、また、その北側を三町目といった。
三町目	※二町目を参照。
伊勢町	江戸時代に盛んだったお伊勢参りにあやかるため、商店街の名前を伊勢町とした。
弥治川町	現在ある平滑川は、昔、谷地川(やちがわ)、その「やちかわ」に漢字を当てはめた時に弥治川となった町。
大工町	家大工、船大工が住んでいた町。
七軒町	元禄前後の地震と大津波後に家が七軒残ったため、また、埋立てが終わり、新しく七軒の家が建った町ともいわれる。
坂下町	大浦の御番所へ向かう切通しを作ったときに埋立て、大浦坂の下の町。
広岡町	岡方村と下田町が合併した際に、岡方村の名前を広岡町に改めた。



下田市旧下田町 伝統的建築物群保存対策調査報告書を参考

旧町と通りの名称(地図は現状の市街)